

普及活動情勢報告（平成28年1月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

A土佐香美露地文旦部会 出荷目慣らし会開催支援



目慣らし会の様子

1月5日、JA土佐香美みかん共選場で、露地文旦部会の出荷目慣らし会が開催されました。

今年度の果実は秋季の高温多雨の影響で果皮が弱く、長期貯蔵には腐敗のリスクが高まる事が予想されます。そこで農業改良普及課では貯蔵方法の再確認と早期出荷に努め、評価の低下に繋がる市場での腐敗事故を発生させないように指導しました。また、本年度から初めての取り組みとして加工用の受け込みを開始することから、県全体での土佐文旦のPR販売活動の動きを視野に入れて出荷を強化するよう促しました。

農業改良普及課ではJAや部会と連携し、有利販売に繋がる土佐文旦の出荷や、加工文旦の出荷が充実できるよう産地を支援していきます。

ニラ部会 10年後の将来像に向けて～ JA土佐香美ニラ産地ビジョンPT会～



PT会での検討状況

12月25日、JA土佐香美ニラ部会は、山田支所においてPT会を開催しました。役員、県の産地・流通支援課などが参加し、「既存農家の経営安定」や「規模拡大志向農家の支援」、「新規就農者・品目転換農家の支援」の3チームに分かれて推進の検討をしました。農業改良普及課は、進行や助言を行いました。各チーム会では、「雇用労力不足からそぐり機の導入は欠かせない」や「ハウスの建設に繋げてゆくため、国や県の補助事業を積極的に活用したい」、「新規就農につながる研修ハウスを導入しては」など、多くの意見が出され、高齢農家の営農継続についても話されました。

農業改良普及課では、各関係機関と協力して、産地ビジョンの具現化と推進について支援します。

菰生米研究会定例会



れんげの生育状況を確認

12月25日JA土佐香美香北支所で菰生米研究会定例会を開催し、食味比較で評価の高かった米の栽培方法について、情報を共有しました。参加者の評価が最も高かったのは、鶏糞だけで栽培したお米で、参加者からは、「熟期は遅れなかったか。収量は少なくならなかったか。」等の質問が出され、その量や施用時期などを確認し、定例会終了後昨年播種したれんげの状況を確認しました。

今後、農業改良普及課では、各ほ場ごとに元肥の施用量や湛水時期、移植日等について検討する予定です。

第 22 回土佐山田地区生産者大会にて青年農業士が P R 活動について報告



パワーポイントで報告

1 月 18 日に J A 土佐香美土佐山田支所にて香美市市長、市場関係者、生産者を含め 160 名の参加のもと生産者大会が開催されました。

大会ではまず、市場関係者から、直近までの品目別・販売状況について報告があった後、青年農業士中央東ブロック活動として 11 月に名古屋で実施した高知県野菜の P R 活動について報告しました。青年農業士からは「取り組み実績を周知できる機会がもて、良かった」また、参加者からは「青年農業士の活発な取り組みが理解できた」などの声が聞かれ有意義な大会となりました。

農業改良普及課は、今後も引き続き、活動を支援してきます。

所得向上へ向けて！ ～西永野集落営農組合の新たな取り組み～



大麦実証ほの様子など

12 月 25 日と 1 月 19 日、永野コミュニティーセンターにて、西永野集落営農組合の役員 4 名と関係者で、今後の所得向上の取り組みについて話し合いました。これまで組合は、作業受託と主食用米の栽培を中心に活動していますが、昨年から水田裏作の大麦の試験的栽培に取り組んでいます。農業改良普及課から、大麦等の栽培によって得られる交付金や、新たな収益品目として青ネギ栽培の取り組みについて紹介しました。参加者からは、「有望品目を導入して経営を安定させていきたい」「青ネギ栽培に取り組みたいが初期投資が心配」等の声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も集落営農組織のステップアップや経営安定に向けて支援していきます。

平成 27 年度新規就農者歓迎会を開催



新規就農者と指導農業士の意見交換を実施

1 月 15 日、香美市役所において、新規就農者 7 名、指導農業士 7 名、関係機関 36 名を集め香美・香南両市の主催による H27 年度香南・香美市地区新規就農者歓迎会が開催されました。

歓迎会では香南・香美両市長や土佐香美農協組合長から激励の挨拶や関係機関からの情報提供、新規就農者と指導農業士の意見交換を行いました。指導農業士からは就農後の経緯に加え「地域との関わりの大切さ」、「何でも話せる仲間を作ることの重要性」、「目標を持って計画的な経営をすることの意味」などの助言があり、また新規就農者からは「一人前になれるように地域に溶け込んでいきたい」といった意気込みが話されました。

今後も農業改良普及課では各関係機関と協力して新規就農者へ支援を行います。

高校生が農業を体験



出荷場で話を聞く高校生たち

12月20日、農業体験研修「アグリウォッチング」が開催され、県内の高校生18人が参加しました。農業に関する職場に関心をもってもらおうと、ニラの収穫や調整作業を体験し、出荷場を視察しました。

農業改良普及課からは、現地に赴く前の基礎知識として、高知県産野菜の生産状況、ニラの栽培から出荷までの工程を説明しました。参加した高校生や、引率の教職員は初体験のことが多く、「どう刈ればいいのか?」、「この葉はとっていい葉?」などと生産者に質問しながら全員が体験研修を楽しんでいました。

農業改良普及課は、今後もニラだけでなく広く農業教育に関わるとともに将来の担い手育成に向けた支援を行っていきます。

ピーマン現地検討会を開催



圃場の様子

1月15日、JA土佐香美ピーマン部会は香南市内で環境制御技術に取り組んでいる生産者圃場4か所を巡回する現地検討会を開催し、生産者11名が参加しました。

農業改良普及課からは、篤農家圃場の生育調査の経過を報告しました。参加者は、生育バランスに合わせた温度管理や整枝管理などについて、意見を交換し合いました。

春に向けて日射量が増加し、ピーマンの出荷量も増加することから、生育状況を適切に把握して栽培管理につなげられるよう、今後とも定期的に現地検討会を開催していく予定です。